

## Manual ■ 夏が来た

《夏が来た》は13世紀頃にイギリスで作曲された曲で、楽譜に残る世界最古の合唱曲と言われています。寒くて長い冬が終わって夏を迎えることの喜びを歌い、素朴な中にも生命の躍動が感じられる曲です。また、1972年、ミュンヘンオリンピックの開会式で、このカノンが何百人もの子ども達によって華やかに歌われたことでも知られている曲です。

主となるメロディーを4声のカノンにし、それに加えて伴奏のような役割を果たすメロディー（オスティナート）も2声のカノンで重なります（6声による2重カノン）。一見して難しいことをしているようですが、きちんとステップを踏んで練習すれば、誰でも歌うことができる曲です。

### Step 1

まずは全員で  
メロディーの練習

#### 【メロディーユニゾン】

- ・音の跳躍があり音域も広い曲なので、このユニゾンの段階で十分に練習する。
- ・言葉をはっきり発音し、明るく。‘Sing’は「シング」ではなく「スィング」と発音する。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

### Step 2

オスティナートを  
練習する

#### 【オスティナートユニゾン】

- ・隣同士の音は、意外にも音程が乱れやすくなる。指導者が生徒の歌声をよく聴き、根気強く指摘する。

☞オスティナート：同じメロディーを繰り返すこと

### Step 3

オスティナートを  
2つに分ける

#### 【オスティナートカノン】

- ・2つのパートが同じピッチで歌えるように、お互いに聴き合い、音を合わせる事が大切。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

### Step 4

Step 1とStep 3を  
重ねる

#### 【メロディーユニゾン+オスティナートカノン】

- ・オスティナートから歌いだし、指揮者の指示でメロディーを重ねる。
- ・メロディーとオスティナートのテンポが合うように、お互いに聴き合って歌う事が大切。

### Step 5

メロディーを  
2つに分ける

#### 【メロディー2声カノン】

- ・2つのパートのピッチが揃うように、お互いに聴きあって歌う。

### Step 6

メロディーを4つに  
分ける

#### 【メロディー4声カノン】

- ・ここでは4つのパートが循環して、次々に同じメロディーが現れてくる。その違うパートによる同じメロディーが同じように聴こえてくるかを聴き、差があれば指摘する。特に‘Sing, Cuccu!’の箇所各パートが同じ強さやピッチで歌えるように練習する。

### Step 7

Step 3とStep 6を  
重ねる

#### 【メロディー4声カノン+オスティナートカノン】

- ・6つのパートが違う動きで重なり合っている状態。このときも、すべてのパートが同じテンポを共有できるように集中させる。お互いに聴き合うということが大切。

- ★うまくいかないときは、最初のステップに戻って練習しましょう。
- ★旋律と和声のかかわり（テクスチュア）を意識して歌いましょう。
- ★男声のオスティナートは音域が狭いため、声変わりをした子どもにも歌える曲として適しています。
- ★今回は混声合唱にしましたが、同声合唱で歌うこともできます。

# 夏が来た

*Sumer is icumen in*

作者不詳 13世紀イギリス曲  
訳詞 プロジェクトオリジナル

♩. = 108

**A**

Su - mer is i - - cu - men in; lhu - de sing, cuc - cu!  
さあ\_\_ な つ が ぎ た\_\_ よ みんな Sing cuc - cu!

5

Grow - eth sed and blow - eth med and springth the wu - de nu;  
た い よ う み ど り が か が や い て

9

Sing, cuc - - - cu! Aw - - e ble - teth af - - - ter lomb, lhouth  
Sing cuc - - - cu! め う し は こ も り で

13

af - ter cal - ve cu; bul - luc ster - teth, buc - ke ver - teth;  
た い へ ん だ! お う し は お ど っ て

17

mu - - rye sing, cuc - cu! Cuc - - - cu, cuc - - - cu!  
そ れ! Sing cuc - cu! Cuc - - - cu, cuc - - - cu!

21

Wel thu sing - est, cuc - - - cu; ne swik thu na - ver nu.  
す て き な う た を い つ ま で も

**B**

Sing cuc - - - cu, nu; sing, cuc - - - cu!  
Sing cuc - - - cu! nu; sing, cuc - - - cu!

## 音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
  
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン…など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
  
- ピッチ： 音高（音の高さ）
  
- 順次進行： ある音が音階の隣りあった音、すなわち2度上または下へ進行すること。これに対して、ある音が3度以上離れた音に進むことを跳躍進行という。
  
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
  
- テクスチュア： 旋律と和声の作曲上の特徴をいう。一般に、ホモフォニーでは、旋律と和声進行を担う伴奏部とが明瞭に区別される。ポリフォニックな書法においてはいくつかの声部が独立して、あるいは互いに模倣しながら動く。このような音楽構造上の特徴をおおまかに言い表すもので、例えば声部数によって決定される響きの「厚み」、ユニゾンやオクターヴでの重複のしかた、演奏に内在する力感の「軽さ」や「重さ」、などが問題となる。

### [出典]

- ・目黒惇編（1983）『新訂合唱事典』 音楽之友社。
- ・浅香淳編（1991）『新訂標準音楽辞典』 音楽之友社。
- ・柴田南雄、遠山一行総監修（1996）『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社。
- ・小西友七、南出康世編集主幹（2006）『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

## 参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著（1975）『コダーイ・システムとは何か』  
羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳、全音楽譜出版社。
- ・カルドシュ・パール（1994）『合唱の育成・合唱の響き』  
羽仁協子監修、菅原恵利訳、全音楽譜出版社。